

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人浜松国際交流協会

1. 事業名称 浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム普及事業

2. 事業の目的

平成24年度文化庁委託事業「浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業」で策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを浜松市内に普及および活用させる。評価システムを活用し、学習者は自己の日本語コミュニケーション能力を客観的に知り、自律学習の動機づけや社会参加への促進とつなげる。地域日本語学習支援団体は、学習者の日本語評価を行うことによって、それぞれの日本語学習の成果や課題を認識し、学習者のニーズに即した効果的な学習プログラムの構築につなげる。また、評価システムを社会に発信することによって、周辺化された外国人の存在をより顕在化し、日本社会の多文化共生社会への変容を目指す。

3. 事業内容の概要

平成24年度文化庁委託事業「浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業」で策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを浜松市内に普及および活用させるために、専門部会を立ち上げ浜松版日本語コミュニケーション能力テスト・インタビューを試行し、評価基準表の内容を精査する。また、普及方法を検討するために普及検討委員会を立ち上げる。委員会には市内の主要日本語学習支援団体、ならびに厚生労働省委託事業日系人就労準備研修を行っている一般財団法人日本国際協力センターに参画を呼び掛け、各地の教室でインタビューテストの試行を進めていくとともに、課題や改善点を確認し精度を上げる。また、評価結果をもとに、市内の日本語教室の学習対象者レベルを明示化し、学習者が継続的に学習ができるよう日本語教育コースマップを作成する。評価の目的が生活者としての外国人の自立促進でもあることから、社会参加支援のための日本語教室を開講し、外国人の社会参加を積極的に促していく。さらに、評価システムを発表するシンポジウムを行い、策定までの経緯や目的についてや、評価の活用方法、今後の展望を発表し、外国人への日本語教育の重要性の理解を呼び掛ける機会とする。

4. 運営委員会の開催について

【概要】						
回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年7月5日 16:00～17:30	1.5時間	浜松市多文化共生センター	小林悦夫 嶋田和子 白井えり子 吉田清 村田和彦 藤田健次 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵	事業計画について	・昨年度開発した評価システムの課題をどう克服していくか。今年度はインタビューテストをメインに改善していく。 ・日系人就労準備研修でも独自の評価基準を持っている。ものさしを共有する可能性も含みつつ連携していければ。 ・評価の上限についても検討していくべき。 ・ものさしのひとり歩きの危険性について。社会参加のための評価システムであることを言い続ける必要がある。

2	平成25年10月11日 16:00～17:30	1.5時間	浜松市多文化共生センター	嶋田和子 白井えり子 吉田清 村田和彦 藤田健次 内山夕輝 河口美緒 鈴木由美恵	第1期でいねいな日本語について 評価基準検討部会について 評価システム普及検討委員会について シンポジウム企画について	・日本で定着して安定した収入が得られて生活ができるという目標のためには、初級レベルの日本語ができればそれで良いということではない。 ・浜松市外国人学習支援センターは初期指導がメインで、今回行ったいねいな日本語はそれ以上のレベルを対象として行った。今後、どちらかに軸足を置くのか。 ・各機関が連携しつながることが、学習者にとって一番良い。 ・テスターという呼称については慎重な議論が必要。 ・普及検討委員会については、各団体の理念や目的がはっきりしたという点、これは開発したから共通言語が見えてきたのであり、ここに意味があったということを強調したい。
3	平成26年2月18日 16:00～17:30	1.5時間	浜松市多文化共生センター	小林悦夫 嶋田和子 白井えり子 柳澤好昭 吉田清 村田和彦 藤田健次 内山夕輝 河口美緒	第1期でいねいな日本語について 評価基準検討部会について 評価システム普及検討委員会について シンポジウム企画について	・上のレベルの要望にどう応えていくか。ニーズがあるのはわかった。JICEとの連携が必要。 ・NPOや各教室が何をしているか中核組織として把握するべき。 ・テストは現場を変える。影響力が大きい。どう拡げるか戦略的に考える必要がある。 ・TeacherとInstructorは違う。 ・日本人に寄せる評価をしてはいけない。絶対基準に見せない工夫が必要。 ・普及ありきで作ったのではない。経緯を大事に。なぜ必要なのかを言い続ける。 ・シンポジウムはそれを伝える良い機会となる

5. 取組についての報告

○取組1: 浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム普及検討委員会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

平成24年度に策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの普及方法について検討する。

(2) 取組内容

浜松市内の主要日本語学習支援団体ならびに一般財団法人日本国際協力センターに参画を呼びかけ、各教室の対象レベルを評価基準を活用して見える化する。それとともに、地域の日本語学習コースマップを作成し、日本語学習環境を整備し、学習者のオートノミーを養う。

(3) 対象者

With U-Net(HICE日本語ボランティア有志の会)、にほんごNPO、ジャボラNPO、一般社団法人日本語国際協力センター、公益財団法人浜松国際交流協会事務局

(4) 参加者の総数 11人

(出身・国籍別内訳 日本11人)

(5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 2 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成25年9月19日 15:00～17:00	2時間	浜松市多文化共生センター	11人	日本 11人	地域日本語教育の現状把握、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの普及について	・日本語学習支援団体の現況について情報共有 ・評価システムの連携について検討	加藤庸子(にほんごNPO) 佐藤康代(にほんごNPO) 河合せつみ(ジャボラNPO) 岩永府子(ジャボラNPO) 渡部裕子(JICE) 松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 藤田健次(HICE) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
2	平成26年1月22日(水) 13:00～15:00	2時間	浜松市多文化共生センター	9人	日本 9人	浜松版日本語コミュニケーション能力テストマニュアルの精査	・テストのやり方、判定方法、評価の仕方について検討 ・インタビュー評価シートのポートフォリオ化について検討	加藤庸子(にほんごNPO) 佐藤康代(にほんごNPO) 河合せつみ(ジャボラNPO) 渡部裕子(JICE) 松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)

(7) 参加者の募集方法

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



各団体の情報について調査票を提出してもらい、情報共有した。また、浜松版日本語コミュニケーション能力テストのインタビューをサンプルとして聞いてもらい、判定のわかりにくい点や活用できそうな点等をあげてもらった。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

これまで、同じ地域で日本語教室を開催していたが、横の連携が薄く何曜日にどこで教室を開催しているかという情報しか見えていなかった。本委員会を通じて、浜松市内で日本語教室を開催する主要団体の、活動目的や内容が具体的に明らかになったのは大きな収穫である。
また、自治体による行政施設の浜松市外国人学習支援センターと、地域住民がボランティアとして担う地域日本語教室、厚生労働省委託の日系人就労準備研修とは、日本語教室とも言っても置かれている立場や目的に違いがあることがあらためてわかり、共有することができた。

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム(HAJACシステム)の普及に向けて、評価者養成講座を検討しているが、講座内容や進め方についてヒントを得られた。
地域の日本語学習支援団体からは、このテストを行う難しさや手間から、インタビュー評価シートをポートフォリオ化して共有することの提案が得られた。

(10) 改善点について

浜松市における日本語教室の目的や役割を踏まえたうえで、具体的な連携方法まで議論を深めたかった。今後は、市全域における日本語教育環境整備に向けて補い合えるような関係作りを目指していきたい。
また、外国人住民の永住化が進んでいる背景からも、安定した仕事に就くことへの支援は今後も必要となってくる。厚生労働省の日系人就労準備研修との連携を具体的につめていきたい。

○取組2：浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準検討部会

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
平成24年度に策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準を試行改善する。
- (2) 取組内容
浜松市外国人学習支援センターやその他の教室に通う学習者を対象に、浜松版日本語コミュニケーション能力テストを試行し、改善する。また、評価をクラス分けに活用し評価システムを確立する。そのほか、学習者のテストデータから課題を確認し、学習プログラムの見直しを行う。
- (3) 対象者
平成24年度文化庁委託事業浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業に携わったワーキンググループメンバー、公益財団法人浜松国際交流協会事務局
- (4) 参加者の総数 7人
(出身・国籍別内訳 日本7人)
- (5) 開催時間数(回数) 33時間 (全 11回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成25年7月24日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①C6,C7,C8の精査 ②境界線の判定をどうするか ③基準の上限をどこに設定するか ④文字おこしの手間について ⑤マニュアルの整備 ⑥テスター養成について	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
2	平成25年7月31日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①C5,C6,C7,C8の音声を聞き共通項を探す ②判定の妥当性を探る	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
3	平成25年8月7日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	6人	日本(6人)	改善点の確認	①C6,C7,C8レベルの外国人を細かく精査する必要があるか ②C8の上限は妥当であるか ③C4判定の基準とは。同じ判定でも特徴の違いあり。新評価枠「S4」の可能性。	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
4	平成25年8月21日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①新評価枠「S4」の再考。「S4」をやめC5枠に再編。 ②C4-C7の境界線の判断基準決定。C4-C5は「発話量の差」、C5-C6は「意味の差」、C6-C7は「表現の差」にて判断	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
5	平成25年8月28日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①C5,C6,C7,C8のその他の要素の項目を再考	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)

6	平成25年9月5日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①C7,C8の境界線の判断基準を話し合い、上限を「C7」とする ②C7の特徴の項目を再考 ③評価基準表の項目の入れ替え ④評価基準表の判定と浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)の日本語教室とレベル確認 ⑤次期検討部会での課題の確認	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
7	平成25年12月4日 13:00～16:00	3時間	クリエート浜松(文化コミュニケーションセンター)	7人	日本(7人)	改善点の確認	①日本語教育におけるCEFRの可能性、浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準との関連性 ②普及に向けたレベル表の作成と多言語訳の必要性 ③基準表の見直し ④評価者の名称確認とマニュアルの検討 ⑤評価者養成について	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
8	平成25年12月11日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①レベル表の内容を精査 ②評価基準表の内容の精査 ③浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの通称名検討 ④浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム評価者の資格について(日本語教師限定か、行政、企業担当者も含めるか)	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
9	平成25年12月18日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①レベル表、評価基準表の内容の精査 ②インタビュー音声と基準表の照らし合わせ ③基準表における「できることの例」と「特徴」を分割 ④質問の例を「く」に「家族」「料理」「趣味」の話題ごとに作る ⑤ロールプレイの内容を検討	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
10	平成25年12月25日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	7人	日本(7人)	改善点の確認	①インタビュー音声と基準表の照らし合わせ ②評価者養成講座(トライアル)について	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)
11	平成26年1月8日 13:00～16:00	3時間	浜松市多文化共生センター	6人	日本(6人)	改善点の確認	①評価システム普及検討委員会について ②日本語教育シンポジウムについて	松葉優子(With U-Net) 松本三知代(With U-Net) 石川知子(With U-Net) 内山夕輝(HICE) 河口美緒(HICE) 鈴木由美恵(HICE)

(7) 参加者の募集方法

平成24年度文化庁委託浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業のワーキンググループメンバーに協力を依頼。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

昨年度策定したインタビューテストの評価基準を改善するため、浜松市外国人学習支援センターの学習者や、取組3の日本語教室「ていねいな日本語」の学習者、また外国人コミュニティリーダーらにインタビューテストの協力してもらった。部会では、それらのデータを集め確認しながら基準表の見直しを中心に行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

・基準表の見直しを行った。

昨年度作成した時点ではC5,C6,C7,C8は浜松市外国人学習支援センター(U-ToC)内には該当の学習者もおらず、議論が十分ではなかったこともあり、上記レベル該当者と思われる外国人にインタビューを行い、その音声や文字起こしを元に話合った。

【変更点】

①浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準表の書式を改善した。

(旧)その他の要素を(新)特徴と変えた。また、特徴を難易度別に見直し、レベル差が段階的にわかるように表現した。

「できることの例」「質問の例」は、インタビュー前に評価者が理解をし、その上であたりをつけながらインタビューを行うために必要な欄である。一方、「特徴」は、インタビュー後にレベルを判断するための目安として必要な欄である。質問の例を投げかけてそれに答えられたかどうかで判断するのではないのだが、そこが旧表だとわかりにくかったため、切り離して右端に寄せた。また、日本語コミュニケーション能力を判定する基準表を強く意識するため、その他の要素を特徴とし左端に移動させた。

②「日常生活における場面や話題において問題なくコミュニケーションを達成できる」ことを目指すこととし、C8判定をやめ、C7までの基準に変更した。

C7、C8の人達をどこまで細かく判定すべきかが大きな議論となった。特に、C7とC8の「日本語能力」の違いが旧表ではわかりにくいこと、また、その人の成育環境や知識の差によって判定がわかれる可能性があることが争点となった。

「何のために評価を作るのか」と原点に立ち戻り、生活者が社会参加できるように日本語学習を進めることが目的であること、また、正直なところ現状の日本語教室ではC6位までが教えられる範囲だという意見もあがったため、上限をC7にし、C7以上の判定に対しては学習者からの希望があった場合に限り、他のテスト提案することとした。

→C8基準は、第2世代以降の外国人の日本語能力を示すために必要だという案もあり。

③C4-C5の境界線(判断基準)を「発話量の差」、C5-C6の境界線を「意味の差」、C6-C7の境界線を「表現の差」と決めた。

同じC4判定の学習者でも発話の特徴が全く異なっていることがわかった。例えば、U-ToCで体系的に日本語を勉強した学習者の特徴として、①発話量は少ないが②文の構造も分かりやすく③誤用も少ないため、とても④聞きやすいことがあげられる。一方で、体系的に日本語を学習する機会が無く生活上で日本語を習得した学習者は、説明を求めると一生懸命伝えようと①非常に多く言葉を発する。しかし②ワンパターンの表現で説明したり、言い換えができないため、同じ事を何度も繰り返すことが多く、③結局説明しきれずに相手には意味が伝わらなかったり、④聞き手に非常に負担がかかることが特徴としてあげられる。

これらの全く異なる特徴に対し、判定を分けるべきだと意見があがった。そこで、後者の発話特徴に対応する新たな枠組み「S4」が浮上した。しかし、これらの特徴は体系的に日本語学習をする機会がなかった多くの生活者に見られるものであり、その場合、ほとんどの学習者を「S4」として判断してしまう危険性があつたため却下となった。

上記を踏まえ議論を繰り返し、学習者に対し、より日本語学習の動機づけとなるように境界線を明確に表すこととした。

【成果物】

1) 浜松版日本語コミュニケーション能力レベル表

レベル表はその基準表の特徴を簡潔にまとめたものであり、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを外部に向けて説明する際に用いられるものである。またポルトガル語・英語・中国語・スペイン語に翻訳したものを、今後インタビューテストを受ける学習者にも配布していく。

2) できることの例と質問の例

インタビューの判定の仕方を明確に示すために「できることの例と質問の例」と後述する「基準表」を分けてつくることになった。両者は、評価者養成講座を受ける受講生用としてつくられた。評価者がインタビュー前に「できることの例と質問の例」を読むことでインタビューの流れをイメージしやすくすることを目的として作られた。質問の例に挙げられる質問はあくまで「例」であり、評価者はインタビュー中、自然な流れで質問を作り出さなければならない。

3) 浜松版コミュニケーション能力評価基準表

評価者がインタビュー後レベルを判定する際に用いることを目的として作られた。基準表の項目は「判定」「特徴」「判定の目安」の3つである。「判定」は1) 浜松版日本語コミュニケーション能力レベル表を記載した。「特徴」はインタビューにおける学習者の発話の特徴がまとめられている。「判定の目安」は近接するレベルで判定に迷った際に参考にするものである。質問の例に記載されているような質問を学習者に投げ掛け、その時に返ってきた発話の特徴が判定の根拠となる。

4) ロールプレイカード

検討部会の中でロールプレイはインタビュー中にC6、C7と仮判断した場合にのみ行うこととした。それはC7では相手との関係性を意識し相手に合わせた表現の使い分けができるという特徴があるからである。ロールプレイの場面は検討部会の中でいくつか提案されたため、今後はその種類を増やすことも考えられる。

5) 浜松版日本語コミュニケーション能力(HAJAC)テストマニュアル

評価者養成のために用いられるマニュアルとして作られた。上記2)～4)が掲載されているほか、インタビューの準備の仕方やインタビューシートの記入方法などより実践的な内容が記載されている。また、浜松版日本語コミュニケーション能力評価の仮称をHAJACとした。

(10) 改善点について

課題:

・ 評価者養成講座の内容

今後、HAJACテストを活用していくために評価者養成を考える必要がある。しかし具体的な養成方法についての議論は不十分である。HAJACテストの作成に関わったことのない方にとってこのテストの何が理解しにくいのかを探るため、今年度、U-ToCの日本語教師に対し試験的に養成講座(説明会)を行った。今後は、そこであがった意見等を再考し、次年度からの養成講座につなげていきたい。

・ マニュアルの充実

HAJACテストは半構造化インタビューという一般的にはイメージしにくい手法を取っている。マニュアルにはインタビューの方法や判定の仕方をより明文化し、評価者を指す人にとってわかりやすい内容にする必要がある。

・ 評価の普及と活用方法について

検討部会のメンバー間で、普及を考えると、評価者は日本語教師になるべきという意見と、行政の窓口職員や企業の外国人雇用の担当者にも広げるべきだという意見に分かれた。結論として、判定のフィードバック(評価)ができる(足きりの道具としない)のは日本語教師であるという考え方から養成講座の受講資格は日本語教師とした。今後、普及を目指すにあたり、養成講座においてこの評価の本旨について丁寧に説明理解を求めていく必要がある。

・ 読み書きテストについて

浜松市外国人学習支援センターの日本語教室において、本評価システムを取り入れ運用を進めているが、日本在住歴の長い外国人はHAJAC(インタビュー)テストとかなテスト(H24浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業により開発されたテスト)の結果に大きな差が出る事が多く、クラス分けが非常に難儀である。ブローケンな日本語であっても日本での生活において緊急的に困っていない人にとっては、基礎から日本語を学習することより、効果がすぐにでる学習方法を望む傾向があり、学習の継続が難しい。緊急時や災害時に文字情報を入手するためにも、生活者に密着した読み書きテストの開発が望まれる。

○取組3:社会参加のための日本語教室「ていねいな日本語」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

生活者としての外国人が社会に参画するために必要な日本語力を養うための日本語教室を開設し、安心して社会参加できるように支援する

(2) 取組内容

浜松市外国人学習支援センターで日本語初期指導を修了した学習者が、継続して日本語学習を行い社会参加への足がかりとなるよう、センターより高いレベルの日本語教室を開催する。それにより、学習者のニーズを探るとともに、継続して日本語学習ができるよう環境整備を図る。

学習者の聞き取り調査により、2種類のクラスを設置する。

①保護者や支援員として先生と会話をする時や地域社会活動に参加するときに使える日本語を学ぶクラス

②職場において上司や同僚と会話するときや、就職活動を行うときに使える日本語を学ぶクラス

(3) 対象者 生活者としての外国人

(4) 参加者の総数 51人

(出身・国籍別内訳

ブラジル21人、フィリピン14人、中国8人、ペルー7人、ベトナム1人

(5) 開催時間数(回数) 68時間 (全 34回)

(6) 取組の具体的内容

第1期 ていねいな日本語「学校・生活クラス」

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月6日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	9人	中国(3人)、ブラジル(3人)、フィリピン(3人)	貸し借りの時に使用する表現	・学習者の自己紹介 ・ペア活動を通じて助詞の機能(を、に)を学習した。 ・聴解問題を中心に、貸し借りの時に使う表現を学習した。	松葉優子	高林泰央
2	平成25年7月13日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	7人	中国(1人)、ブラジル(3人)、フィリピン(3人)	貸し借りの時に使用する表現	・単語テスト(前回の復習) ・ペア活動で、丁寧な貸し借りや友達同士の貸し借りの練習を行った。	松葉優子	高林泰央
3	平成25年7月20日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	中国(3人)、ブラジル(2人)、フィリピン(3人)	・貸すのを断る表現(復習) ・予定変更の表現	・小テスト(前回の復習) ・自動詞と他動詞の違い ・選択問題を中心に、予定変更の時に使う表現を学習した。	松葉優子	高林泰央
4	平成25年7月27日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	中国(3人)、ブラジル(2人)、フィリピン(3人)	・予定変更の表現	・小テスト(前回の復習) ・聴解問題を中心に、予定変更をする時に使う表現を学習した。	松葉優子	高林泰央
5	平成25年8月3日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	11人	中国(4人)、ブラジル(3人)、フィリピン(3人)、ベトナム(1人)	・予定変更の表現	・小テスト(前回の復習) ・ペア活動で、様々な場面での予定変更の会話練習を行った。	松葉優子	高林泰央

6	平成25年8月10日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	11人	中国(4人)、ブラジル(3人)、フィリピン(3人)、ベトナム(1人)	・「Vている」が示す二つの意味について(動作の進行と、結果の継続) ・褒める表現	・小テスト(前回の復習) ・「Vている」の例文を二つに分類することで、意味の違いについて学習した。 ・肯定的な言い方と否定的な言い方について学習した。	松葉優子	高林泰央
7	平成25年8月24日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	7人	中国(3人)、ブラジル(2人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	・「Vている」が示す二つの意味について(動作の進行と、結果の継続) ・褒める表現	・小テスト(前回の復習) ・「Vている」の意味の復習 ・聴解問題を中心に、褒める表現を学習した。	松葉優子	高林泰央
8	平成25年8月31日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	中国(3人)、ブラジル(3人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	・褒める表現 ・助詞「を」と「に」の使い分け	・小テスト(前回の復習) ・プリントで助詞「を」と「に」の使い分け方を復習した。 ・褒める表現、褒められたたに対する返答の表現についてまとめた。	松葉優子	高林泰央

第2期 ていねいな日本語「学校・生活クラス」

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年11月30日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	6人	ブラジル(3人)、フィリピン(2人)、ペルー(1人)	アポイントをとる①	・自己紹介 ・コロケーション(衣) ・アポをとる①(メールを書く)	松葉優子	池谷日都美
2	平成25年12月7日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	ブラジル(5人)、フィリピン(1人)、ペルー(2人)	アポイントをとる②	・小テスト ・語彙、コロケーション(食) ・アポイントをとる②(表現確認、言葉の使い分け)	松葉優子	池谷日都美
3	平成25年12月14日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	10人	ブラジル(6人)、フィリピン(2人)、ペルー(2人)	伝言する①	・小テスト ・語彙、コロケーション(食) ・伝言する①(伝言についてのポイント整理、伝言を書く)	松葉優子	池谷日都美
4	平成25年12月21日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	7人	ブラジル(3人)、フィリピン(2人)、ペルー(2人)	伝言する②	・小テスト ・語彙、コロケーション(家事) ・伝言する②(伝言を正しく、相手に合わせた表現で書くことができる)	松葉優子	池谷日都美
5	平成26年1月11日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	6人	ブラジル(2人)、フィリピン(2人)、ペルー(2人)	誘う①	・小テスト ・語彙、コロケーション(家、住まい) ・誘う①(メールでどこかに誘うことができる)	松葉優子	池谷日都美
6	平成26年1月18日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	6人	ブラジル(4人)、フィリピン(1人)、ペルー(1人)	葬式のマナーと日本語	お通夜やお葬式で使う言葉やマナーの講義、および練習(焼香や不祝儀袋への名前の書き方等)	松葉優子	池谷日都美

7	平成26年1月25日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	ブラジル(4人)、フィリピン(2人)、ペルー(2人)	誘う②	・小テスト ・語彙、コロケーション(家財) ・誘う①(メールで誘う時の表現を学習する)	松葉優子	池谷日都美
8	平成26年2月1日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	8人	ブラジル(4人)、フィリピン(2人)、ペルー(2人)	誘われる①	・小テスト ・語彙、コロケーション(設備) ・誘われる①(メールで誘いを受けたが返事を待ってもらうようにメールで伝えることができる。)	松葉優子	池谷日都美
9	平成26年2月8日 10:00～12:00	2時間	浜松市多文化共生センター	7人	ブラジル(4人)、フィリピン(2人)、ペルー(1人)	誘われる②	・小テスト ・誘われる②(メールで誘いを受けたが相手に嫌な印象を与えないようにメールで断ることができる。)	松葉優子	池谷日都美

第1期 ていねいな日本語「職場クラス」

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年7月6日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	14人	中国(3人)、ブラジル(3人)、フィリピン(6人)、ペルー(3人)	面接や職場における自己紹介、自己PR	自分の性格を分析し、面接で効果的な自己PRができる。	松本三知代	池谷日都美
2	平成25年7月13日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	11人	中国(2人)、ブラジル(4人)、フィリピン(3人)、ペルー(2人)	電話の掛け方	電話をかけるときの準備や注意事項が理解できる。 会社や取引先に効率的で感じの良い電話をかけることができる。	松本三知代	池谷日都美
3	平成25年7月20日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	14人	中国(1人)、ブラジル(5人)、フィリピン(6人)、ペルー(2人)	電話を受ける	場面と相手に応じた電話対応ができる。 効率的で感じの良い電話のやりとりができる。	松本三知代	池谷日都美
4	平成25年7月27日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	10人	中国(2人)、ブラジル(4人)、フィリピン(3人)、ペルー(1人)	面接①	・電話のやり取り復習。 ・面接において、志望動機、職務履歴、特技や専門をわかりやすく伝えることができる。	松本三知代	池谷日都美
5	平成25年8月3日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	11人	中国(2人)、ブラジル(3人)、フィリピン(5人)、ペルー(1人)	面接②	・模擬面接で、実践的な面接のやり取りができる。	松本三知代	池谷日都美
6	平成25年8月10日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	11人	中国(1人)、ブラジル(3人)、フィリピン(5人)、ペルー(2人)	職場での報・連・相①	職場での報告の必要性を理解できる。 わかりやすく正確に報告ができる。 (①優先順位 ②結果報告・経緯の説明 ③必要に応じて責任の所在)	松本三知代	池谷日都美

7	平成25 年8月24 日 10:00～ 12:00	2時 間	浜松多文化 共生センター	7人	中国(2 人)、ブラ ジル(2 人)、フィ リピン(2 人)、ペ ルー(1 人)	職場での 報・連・相②	職場での連絡・相談の重要性を理解 し、周囲には配慮しながらその場に ふさわしい連絡や相談ができる。	松本三知代	池谷日都美
8	平成25 年8月31 日 10:00～ 12:00	2時 間	浜松多文化 共生センター	9人	ブラジル (3人)、 フィリ ピン(5人)、 ペルー (1人)、	職場での会 話(コミュニ ケーション や待遇表 現)	職場の休憩時間で会話のやりとりが できる。(話題選びや相手に応じた会 話) 第3次産業など社内(同僚・上司部 下)と社外(客・取引先)のウチソトに 配慮して会話ができる。	松本三知代	池谷日都美

第2期 ていねいな日本語「職場クラス」

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年11月30日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	8人	ブラジル(4人)、 フィリピン(2人)、 ペルー(2人)	敬語の基本	・敬語の種類(尊敬語・謙譲語・丁寧語)と作り方を理解する。 ・相手や場面に応じて使い分けの練習をする。(丁寧語・尊敬語)	松本三知代	高林泰央
2	平成25年12月7日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	10人	ブラジル(6人)、 フィリピン(2人)、 ペルー(1人)、 中国(1人)	相手や場面に応じたあいさつやコミュニケーション	・復習テスト。 ・尊敬語の使い方と作り方を理解する。 ・相手や場面に応じたあいさつの使い分けを練習する。(丁寧語・尊敬語・謙譲語)	松本三知代	高林泰央
3	平成25年12月14日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	8人	ブラジル(6人)、 フィリピン(1人)、 中国(1人)	予約をする。予約を受ける。	・復習テスト。 ・予約の時に使う丁寧な表現を確認する。 ・ロールプレイでホテルやレストランの予約の練習をする。	松本三知代	高林泰央
4	平成25年12月21日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	10人	ブラジル(6人)、 フィリピン(2人)、 ペルー(1人)、 中国(1人)	職場での電話対応	・復習テスト。 ・職場で電話応対をする時に使う表現を確認する。 ・ロールプレイで電話応対の練習をする。	松本三知代	高林泰央
5	平成26年1月11日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	6人	ブラジル(3人)、 フィリピン(1人)、 ペルー(1人)、 中国(1人)	職場での電話対応	・復習テスト。 ・前回学習した表現を使って、ロールプレイで電話応対を練習。	松本三知代	高林泰央
6	平成26年1月18日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	7人	ブラジル(4人)、 フィリピン(2人)、 ペルー(1人)	お葬式のマナーと日本語	・お通夜やお葬式で使う言葉やマナーの講義 ・受付、焼香の練習 ・不祝儀袋に名前を書く練習	岡本秀仁	高林泰央
7	平成26年1月25日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	8人	ブラジル(6人)、 ペルー(1人)、 中国(1人)	報告・連絡・相談	・1/18の特別講義について、未参加者に報告する練習。 ・報告、連絡、相談はそれぞれ何をするのかを確認する。また、実行の際に配慮することも確認する。 ・ロールプレイで報連相を練習。	松本三知代	高林泰央
8	平成26年2月1日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	7人	ブラジル(5人)、 ペルー(1人)、 フィリピン(1人)	報告・連絡・相談	・報告、連絡、相談の意味を確認する。 ・ちらしを使って、ペアで連絡のロールプレイを行う。 ・ちらしを使って、ペアで相談のロールプレイを行う。 ・複数の人に対して、ちらしの内容の連絡または報告を行う。	松本三知代	高林泰央
9	平成26年2月8日 10:00～12:00	2時間	浜松多文化共生センター	9人	ブラジル(6人)、 ペルー(1人)、 フィリピン(2人)	電話対応の復習	・復習テスト。 ・ペアで電話応対のロールプレイを行う。 ・ロールプレイを発表して、フィードバックを行う。	松本三知代	高林泰央

(7) 参加者の募集方法

HICE NEWS、HP、Facebookへの掲載、区役所、公民館、図書館等でのちらしの配布、公立小中学校に在籍する外国籍児童生徒へちらしの配布、母語教室でのちらしの配布

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第2期では、急きょ特別公開講座を行なった。お葬式のマナーと日本語という内容にし、葬儀の際に使う挨拶や不祝儀袋の記入等、実践的な練習を行なった。また、公開講座にしたことで、他団体の学習者のみならず支援者からも申し込みがあった。

参加した学習者からは「義母からいざという時にできないと恥ずかしいと言われていたので勉強できて良かった」という声や、「以前目にした隣人の死装束姿がブラジルとあまりに違うのでショックを受けたことがあるが、今回その意味を勉強できたので納得した」という声があがり、特別な伝統文化だけではなく、日常生活上にある文化を学ぶ機会の大切さを痛感した。

1級葬祭ディレクターの資格を持つ講師をお招きし講義や実技指導をお願いしたが、日本語教師が専門語彙の説明や、やさしい日本語への通訳をすることによって学習者の理解度が増した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

1期 丁寧な日本語(学校・生活) 受講者アンケート結果

回答者 8名

1. ていねいな日本語の授業内容について

良い	8人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

何が一番(良い/悪い)ですか?

- ・良かった。すごく勉強になります。
- ・全て良かったです。丁寧な言葉と伝え方を学べたこと。
- ・話す相手によって言葉の使い方が違ってくるのが難しかった。フレンドリーな言葉を使いたいと思います。松葉先生が爽やかで面白く、素敵な方でした。
- ・雰囲気がとてもいいです。
- ・普段の生活で使える内容だったところ。
- ・先生。宿題とテストも良かったと思います。
- ・すぐに使えることを勉強できたのがとても良かったです。

2. ていねいな日本語の授業スピードについて

速い	0人
やや速い	4人
遅い	0人
やや遅い	0人
わからない	0人
無効回答	4人

理由

- ・良かったと思います。
- ・ちょっと速かったけれど、大丈夫です。

3. ていねいな日本語のテキストについて

良い	7人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	1人

理由

- ・良かった。
- ・色々な例文があって、わかりやすかった。
- ・とてもわかりやすいです。

4. ていねいな日本語の教師について

良い	6人
まあまあ良い	1人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	1人

理由

- ・良かった
- ・先生は、やさしくて丁寧に教えてくれる人でした。
- ・フレンドリーで面白かった。分かりやすく教えていただけてとても良かったです。
- ・優しい先生なので、勉強するのが面白くなりました。
- ・熱心に教えていただいたから。
- ・分かりやすく、楽しい授業でした。
- ・教え方がわかりやすかったです。

5. あなたは、なぜこの「ていねいな日本語」を申しましたか？

- ・色々な言葉と日本の文化についてもっと勉強したかったから。
- ・日常生活と仕事で使える正確で丁寧な日本語を覚えたかったから。ほとんど自分で日本語の勉強をしてきたため、正しく使えているか不安だった。
- ・丁寧な日本語で学校の先生方と話したかったから。
- ・日本の言葉をはやく勉強したいです。【アンケート原文】
- ・自分の気持ちを正しく表現して伝えたかったから。
- ・子どももっています。生活の中によく使うの内容です。【アンケート原文】
- ・もっと丁寧な日本語を勉強したいから。
- ・日本語が上手になりたいから。

6. 今後、学んでいねいな日本語をどこで使いたいですか？

- ・仕事や近所付き合いなど、色々なところ。
- ・学校
- ・仕事と生活の中。
- ・近隣の年上の人やお世話になっている人、学校の先生などと話す時。
- ・幼稚園の先生、保護者、職場の上司などと話す時。
- ・学校の先生と話をする時。

7. これから先も日本語を勉強したいと思いますか？

はい	8人
いいえ	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・日本語を上達させて、日本人ともっと良い関係を作りたいから。
- ・日本語が上手になりたいから。
- ・自分の日本語はまだまだなので、レベルアップさせたいから。
- ・日本語がわかると、生活がもっと楽しくなると思うから。
- ・日本人みたいにもっと自然な話し方ができるようになりたいから。都合が合えば、また教室で勉強したいです。

8. 日本語の何が一番苦手ですか？

話す	2人
聞く	2人
読む	0人
書く	2人
無効回答	2人

9. 感想を何でもお聞かせください

- ・「ていねいな日本語」はとても良かったと思います。もっと日本語を勉強したいと思います。ありがとうございました。
- ・日本語の勉強を続けたいと思います。N1の試験対策のクラスがあるとうれしい。丁寧なFAX、手紙、電話のかけ方を覚えたい。色々ありがとうございました。
- ・色々な国の人を友達になれて嬉しかった。先生とアシスタントが優しくて、授業が楽しかった。
- ・「ていねいな日本語」は楽しかったです。色々な丁寧な日本語を勉強出来ました。
- ・先生やクラスの間みんなも優しいので、とてもいい教室でした。
- ・丁寧な日本語を勉強できるのは、すごく良いと思います。

回答者 9名

1. ていねいな日本語の授業内容について

良い	8人
まあまあ良い	1人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

何が一番(良い/悪い)ですか?

- ・ちゃんと丁寧な言葉を学べた。
- ・会社でのやりとり(言葉遣い)を学べた。
- ・グループでの会話練習。
- ・丁寧な言葉が口から出るようになるほど練習ができた。
- ・会社に電話する・電話を受ける練習。

2. ていねいな日本語の授業スピードについて

速い	1人
やや速い	2人
遅い	0人
やや遅い	0人
わからない	0人
無効回答	6人

(ちょうどいいと答えたかった人が、マークなしになっています。)

理由

- ・非常に速く感じた。
- ・ちょうどよかった。
- ・復習が長かった。
- ・先生や皆に助けてもらえた。

3. ていねいな日本語のテキストについて

良い	3人
まあまあ良い	3人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	2人
無効回答	1人

理由

- ・テキストがなかった。
- ・難しかったが、言葉の勉強になった。
- ・漢字の言葉を増やしてほしい。
- ・テキストがあってよかった。

4. ていねいな日本語の教師について

良い	8人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	1人

理由

- ・ふつう。
- ・松本先生は明るくて元気な先生。
- ・学習者に厳しく接し、レベルアップさせようとしてくれた。厳しくないと学習者は頑張らない。
- ・わからないところを教えてくれた。
- ・分かりやすく、楽しい授業でした。
- ・教え方がわかりやすかったです。

5. あなたは、なぜこの「ていねいな日本語」を申しましたか？

- ・いろんなことを学ぶため。
- ・もっと丁寧な日本語を覚えたかったから。
- ・仕事で丁寧な日本語を使わないといけないので。
- ・オフィスで働くためには丁寧な日本語が必要だから。
- ・面接や就業するためのチャンスで丁寧な日本語を使いたいから。
- ・同僚や上司とより良い関係を作るため。
- ・自分の日本語会話能力を高めるため。

6. 今後、学んでていねいな日本語をどこで使いたいですか？

- ・学校の先生からの電話や、家にかかってくる電話。(ウォーターサーバーを買うとき)
- ・つとめてる ところです。(原文ママ)
- ・もう少しいい仕事で使いたい。(意識)「もうちょっと いいしごと つかえるため」(原文ママ)
- ・仕事で使いたい。
- ・毎日の生活、仕事。

7. これから先も日本語を勉強したいと思いますか？

はい	7人
いいえ	0人
わからない	0人
無効回答	2人

理由

- ・自分の日本語を上達させたい。
- ・日本語を学ぶことはいいこと。
- ・もっと勉強したいです。
- ・いろいろなことを知りたい、覚えたい。今の自分の日本語はまだまだだから。
- ・生活をしやすくするため。

8. 日本語の何が一番苦手ですか？

話す	6人
聞く	1人
読む	3人
書く	4人
無効回答	2人

(複数回答あり)

9. 感想を何でもお聞かせください

- ・よかったです。また勉強したいと思います。
- ・例えばテレビを使うなどして、ちゃんとした会話を増やしてほしい。間違っている会話を聞くと混乱するから。
- ・漢字を使う時はふりがなを振ってほしい。できれば、かな・漢字のプリントを配ってほしい。

回答者7名

1. ていねいな日本語の授業内容について

良い	7人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

何が一番(良い/悪い)ですか?

- ・ぜんぶ(よかった)
- ・言葉遣いを正しく教えてくれました
- ・教え方がすごくわかりやすい
- ・メールの書き方がとても便利と思いました。先生やアシスタント、できた友だちをふくめてとてもよかったと思います。
- ・日本の独特な上下関係の文化と習慣、それを考えながらのメールの書き方
- ・葬儀の流れのお話とその体験

2. ていねいな日本語の授業スピードについて

速い	1人
やや速い	1人
遅い	0人
やや遅い	0人
わからない	0人
ちょうどいい	5人

理由

- ・ちょうどわからないとき、また、おしえてくれて、たすかったよ。
- ・ちょうどいい→先生がていねいに教えてくれたからです。
- ・やや速い→期間がみじかかった。

3. ていねいな日本語のテキストについて

良い	7人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・たくさんのことばのおつかえかたはただしくおぼえられる。(原文ママ) (→たくさん言葉の使い方を正しく覚えられる)
- ・わかりやすかった。
- ・漢字の練習の宿題あると良い(原文ママ)

4. ていねいな日本語の教師について

良い	7人
まあまあ良い	0人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・とても親切でうれしかったです。
- ・おもしろい。たのしかった！
- ・たのしい、わかりやすい、ちゃんと教えてくれる。
- ・先生が大好きです。やさしくて、おもしろくて、ていねいに教えてくれているのでまたいっしょに勉強をしたいです。
- ・やさしいです。ありがとうございます。
- ・明るくて元気な先生です。丁寧にわかりやすく質問に答えてくれる

5. あなたは、なぜこの「ていねいな日本語」を申しましたか？

- ・しこし(少し)でも日本語がよみかきできるように申込みしました。
- ・学校と子ども(子ども)かい。ことばにきよつける(気を付ける)。
- ・日本語おぼえるため。
- ・日本人の方や小学校の先生の方とていねいな日本語をお話したいです。
- ・もっと日本語をべんきょうしたいからです。(→もっと勉強したい)
- ・コミュニケーションスキルをにつけたかったため。
- ・いろいろな日本人と関わっていく中で日本語は必要です。学んだことをいかしてさらにつながりを作っていきたいと思います。

6. 今後、学んだていねいな日本語をどこで使いたいですか？

- ・どこへ行ってもべんじができるようつかいたいです。(原文ママ) (→どこでも返事ができるように？)
- ・学校
- ・会社そして学校またはともだち
- ・地域の方や学校
- ・毎日の生活です。
- ・仕事や日本人の友だちや生活など
- ・仕事、子どもの学校関係、地域など。日本で暮らす中で全てなところで使います。

7. これから先も日本語を勉強したいと思いますか？

はい	7人
いいえ	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・日本語ってとてもむずかしいのでもっともっとできれば勉強したいです。
- ・ずっと日本にいたいから。
- ・つづけることがだいじだと思います。
- ・日系人としてブラジルと日本の中で育ってきました。日本にいるチャンス을いかして言葉、習慣、文化を学んでいきたいと思っています。学ぶことで理解を深め、人間として成長していくと考えています。

8. 日本語の何が一番苦手ですか？

話す	1人
聞く	2人
読む	1人
書く	3人
その他	1人

丁寧に書く

9. 感想を何でもお聞かせください

- ・とてもいいおべんきょうになりました。
- ・べんり。
- ・もっと勉強したいのでつづけてほしいです。ありがとうございました。
- ・いい先生や新しい友だちができたことと、正しい日本語をまなんだこと、ありがとうございました。
- ・日本語をいっぱいべんきょうになりました。またべんきょうをありますたら(ありましたら)おしえてください。
- ・このていねいな日本語の授業を続けたいと思います。→(続けてほしいということ？)
- ・日本語の基礎と初級の教室が多いため、それ以上進みたい生徒用のクラスはなかったですので、このようなレベルの教室がふえるとありがたい。漢字用のクラス、新聞読み、日本語スピーチ用、N1のクラスがあると良いと思います。

回答者 9名

1. ていねいな日本語の授業内容について

良い	8人
まあまあ良い	0人
ちょうどいい	1人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

何が一番(良い/悪い)ですか?

- ・毎回のテストと、勉強した内容をすぐに練習するのが良かった。
- ・電話での会話がとても良かった。丁寧な言い方も少しだけ覚えられて嬉しかった。
- ・丁寧な言い方覚えられた。
- ・毎回テストがあるのが学んだことを積み重ねる証明となった。間違いを修正していくためにも役立ちよかった。
- ・グループ練習も実践的で良かった。
- ・この講座で丁寧な日本語を学習することで自分達の毎日の生活が容易になる。自分に自信がもてる(職場等で)
- ・病院や公的機関へ行ったとき、政治的な番組などの内容が以前よりも理解できるようになった。
- ・ていねいな日本語を学習する機会になったこと。続けてほしい。

2. ていねいな日本語の授業スピードについて

速い	0人
やや速い	0人
ちょうどいい	9人
遅い	0人
やや遅い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・何回も練習できる時間があつたから。
- ・生徒たちのスピードに合わせてくれるから
- ・先生がわかるようにしてくれどの回も良かった

3. ていねいな日本語のテキストについて

良い	4人
まあまあ良い	2人
ちょうどいい	1人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	2人

理由

- ・分かりやすくとても良かったから。
- ・授業で配られるプリントで理解できた
- ・段階を踏んで自分たちが良く理解できるように整理されているところ

4. ていねいな日本語の教師について

良い	8人
まあまあ良い	0人
ちょうどいい	1人
あまり良くない	0人
悪い	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・分からないところをゆっくり教えてくれたから。
- ・全員が参加できる練習をしてくれたから。
- ・いつも根気良く生徒を伸ばそうとしてくれる
- ・練習中も見放すことがないので心強い
- ・私たちがもっと学ぶことができるようにと努力してくれる。日常の問題や疑問にも答えてくれる
- ・授業時間外にも私たちのために役立つことを教えてくれる
- ・説明がとても良かった

5. あなたは、なぜこの「ていねいな日本語」を申しましたか？

- ・日本語の能力をレベルアップさせて、日本での生活に役立てたかったから。
- ・仕事で丁寧な日本語を使う必要があるから。
- ・正しい日本語を学びたかったから。
- ・私の仕事に対する信用を良くするため。会社の上層部の人たちとのやりとりをもっとよくしたいから。
- ・日本での生活をより良くしたいから（友人や隣人、就職活動、娘の学校関係）
- ・公の場や会社の上司が頻繁に使う丁寧な言葉をもっとよくわかりたいから。
- ・仕事をしていく上で必要だったから
- ・ていねいな言葉を正しく使いたいから

6. 今後、学んだていねいな日本語をどこで使いたいですか？

- ・仕事と普段の生活
- ・学校の先生と話す時
- ・ひつようなとき使わせていただきたいです。【アンケート原文】
- ・仕事で。仕事を探すとき。電話をするとき。
- ・就職活動（面接）、娘の先生と接するとき
- ・就職活動（面接）、上司と会話するとき
- ・仕事で。日本人との関係作りのとき

7. これから先も日本語を勉強したいと思いますか？

はい	9人
いいえ	0人
わからない	0人
無効回答	0人

理由

- ・日常生活や仕事を向上させたいため
- ・日本での生活をよりよくしていきたいから
- ・より多くの日本語を身につけたいから
- ・自分の母国語ではないため忘れないように。自分の日本での生活のために。自分の子どもたちのために。

8. 日本語の何が一番苦手ですか？

話す	2人
聞く	0人
読む	0人
書く	2人
その他	1人
無効回答	4人

備考

- ・その他、無効回答(複数回答)も含めると、「話す」が4人、「聞く」が1人、「読む」が1人、「書く」が4人、「その他(漢字)」が2人。

9. 感想を何でもお聞かせください

- ・今回の講座はとても勉強になりました。今まで丁寧な言い方が分からなくて困っていましたが、仕事や普段の生活で、勉強したことが役に立ちました。

- ・また勉強したいと思いますので、よろしくお願いします。
- ・このような機会を与えてくださったことを、心から感謝致します。
- ・この講座と同じような講座があるならぜひ参加したい。
- ・知らなかったことが今ではたくさんわかるようになったのでこのクラスが大好きです。
- ・週末にあり時間帯もとても良かった。
- ・書くことと会話をもっと学習したい。

【成果】

- ・普段、U-ToCでは出会えない外国人住民の日本語コミュニケーション能力を知ることができた。インタビューテストに対する反応を見る事ができた。
インタビューテストを行なう事について、緊張した様子を見せる人もいたが、拒絶反応は見られなかった。今回、受講の対象として、U-ToCレベル以上(C5)以上を対象としたが、達しない学習者にはその旨をきちんと説明し、U-ToCのクラスをお勧めし受講につながった。
- ・教室設定の日時や、広報ツールのヒントを得た。
同じ時刻に近隣の会場で子どものための母語教室を行っており、その保護者に対してチラシを配布したところ、申込があった。また、今回もFacebookを通じての問い合わせがあった。

・学習者の実態がわかった。日本語学習ニーズの掘り起こしができた。
1期2期を通じて、出席率も高かった。欠席の理由も、ほとんどが、子どもの病気、本人の体調不良、仕事、お盆、葬式と日常生活の中で起こりうることであった。教室終了後のアンケートによると、なぜこの教室を受講したかという質問に対し、「仕事での信用がほしいから」「日本での生活をより良くしたいから(友人や隣人、就職活動、子どもの学校関係)」「学校と子ども会で使いたいから」「日本人や小学校の先生方とていねいな言葉で話したいから」といった回答が見られた。また、何が一番(良い/悪い)という質問に対し、「メールの書き方がわかってよかった」「自分に自信がもてるようになった」「電話での会話がとても良かった」等の回答が寄せられた。このことから、すでに働いている人や、同胞の子どもたちへの支援をする立場の人であっても、自身の日本語を向上させたいという気持ちを持っていることがわかった。

(10) 改善点について

- ・インタビューテストの普及を考えて、レベル表の多言語訳を作る必要がある一作成済み
- ・母語教室との連携が必要。子は母語教室、親は日本語教室というセットプランを検討する
- ・Facebookを使った広報のより効果的な方法を検討する
- ・日本語教育と日常文化のコラボレーションをどの段階で、どのように取り入れていくか。ある程度日本語を理解していて、日常生活を送っている人でないと難しいかもしれない。
- ・特別講座(文化と日本語教育)開講には、講師謝金が2人分必要
- ・子育てや仕事ですでに日本社会と関わっている層に対する日本語教室の設定の検討。

○取組4:日本語教育シンポジウム「生活者としての外国人に必要な日本語とは～日本語コミュニケーション能力評価の可能性～」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本語教育関係者、日本語ボランティアをはじめ、外国人雇用関係者、地域住民等の参加を広く募り、日本語教育の重要性を社会に呼びかけ理解を求める機会とする

(2) 取組内容

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを策定した目的や開発の経緯、実践事例を踏まえながら評価システム活用方法についての発表を行う。

パネルディスカッションでは、評価システム活用の可能性を軸にし、生活者としての外国人が社会参加するとき求められる日本語能力やそのための日本語教育の必要性を訴えるとともに、外国人と共生する意義や心構えについて広く市民の理解促進を促す。

(3) 対象者

地域日本語教育に関わる日本語講師、ボランティア、集住都市担当者、地域住民

(4) 参加者の総数 100人

(出身・国籍別内訳 日本93人、ブラジル6人、フィリピン1人)

(5) 開催時間数(回数) 6時間 (全 1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成26年3月2日 11:00～17:00	6時間	浜松市地域情報センター、浜松市多文化共生センター	100人	日本93人、ブラジル6人、フィリピン1人	事例発表 パネルディスカッション 多文化共生センター見学ツアー	①事例発表「見える評価で変わる！日本語教室」 浜松版日本語コミュニケーション能力評価の活用慰霊を発表する。外国人市民に必要な日本語教育プログラムを改善する仕組み(U-ToC評価システム)が構築された事例の発表。 ②パネルディスカッション「生活者としての外国人に必要な日本語能力とは」 行政・就労関係者・当事者・日本語教師の立場から、外国人市民が社会参加するための日本語能力とは何か議論を深め、外国人市民との真の共生について考える ③浜松市多文化共生センター見学ツアー 外国人集住都市・浜松における取り組みを施設見学とあわせて紹介するツアー	白井えり子 松葉優子 松本三知代 嶋田和子 石塚良明 内記裕之 柳澤クリスティーナ 吉田清

(7) 参加者の募集方法

HICE NEWS、HP、Facebookへの掲載、区役所、公民館、図書館等でのちらしの配布

外国人集住都市会議参加都市、自治体国際化協会へのちらしの配布、メーリングリストでの情報提供
文化庁日本語教育コーディネーター研修生、関係者へのちらしの配布、メールでの情報提供

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

シンポジウムを2部構成に分けた。

前半は、昨年度より浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業のワーキンググループメンバーとしてご協力いただいている日本語講師による事例発表を行った。

後半は、生活者としての外国人に必要な日本語とはというテーマのもと、行政、ハローワーク、就労支援者、日本語教師、当事者のそれぞれの立場から意見交換を行った。パネルディスカッションの後半では、フロアから意見を募る時間を長く設け、参加者全員と意見交換ができる場作りとした。

シンポジウム終了後に、オプションツアーとして、浜松市多文化共生センターと浜松市外国人学習支援センターの見学ツアーを行った。





(9) 取組の目標の達成状況・成果

参加者からアンケートを募った。回答数60.

・このシンポジウムを何で知りましたか？

HICE NEWS	15
ちらし	14
友人	8
HP	3
その他	15（日本語教師養成講座からの紹介、国際交流協会を通じて）

・午前の部 事例発表「見える評価で変わる！日本語教室」の内容はいかがでしたか？

たいへん良い	30
良い	17
普通	3
あまり良くない	1
不参加	6

【感想】

それぞれの立場、視点からの多様な意見や主張が勉強になった。

評価を次のモチベーションにつなげるのはとても良い。これまでランキングとフィルターレーションに使われるだけだと思っていたが、新しい評価の観念が紹介されて勉強になった。

能力評価を行うにいたった経緯がよくわかった。

評価システムがやはり必要なのだと強く感じた。日本でよりコミュニケーションできるようになるために何が必要なのかを知るためのツールとして、教師も学習者も運営者もうまく利用することが大切だと学んだ。

評価手法を学ぶことで教え方の改善につながることが良いと思う。

評価の方向性をする側、される側の将来の考察があるのもっと良かったと思う。

評価の主旨だけでなく、もっと評価システムの内容について詳しくしりたかった。

評価の方法についての視点が広がった

会場からの意見にもあったように、この評価システムが実際に就労窓口などで活用されると良いと思う。

時間が短く、もっと詳細な部分を聞きたかった。

人間が努力するのに「評価」は必要だと思う。ネガティブな意味でとらえる必要はないと思う。

具体的な数値がわかりやすかった。実際の現場の話聞けるのは有意義だった。

評価者側の負担を考えるとたいへんそうだった。

教師は常にどのような状況でも柔軟に対応しなければならないと強く思った。

評価システムができたことで学習者の意欲が増したというのはとても励みになると思った。

評価をすることで自分の学習目標を立てたり、客観的に自分のことが見られたり、支援者側も適切な支援ができていいと思った。

・午後の部 パネルディスカッション「生活者としての外国人に必要な日本語とは」の内容はいかがでしたか？

たいへん良い	34
良い	19
普通	6

【感想】

様々な分野からの話「人として」「社会として」どうすれば良いのか考える機会になった

生活者への日本語支援とは自立支援であり、また就労もふまえた支援を行うことが必要だと実感した。

今教室に来ている方とのこと、今ある日本語教室のことだけでなく、より広い視点で労働や日本社会への働きかけについても考えていく必要があると思った。

行政側の方が参加されていたことが良い。良いものは予算を取って続けることをしていただきたい。

日本で地域とのコミュニケーションについて日本人同士でも難しい問題であると思う。現に私は全く近所づきあいをしていない。発信する力と協働について私にもできることを真剣に考えたい。

してあげる日本人、してもらう外国人永住者の囲いから出ていない。

就労、子育て等生活するための日本語教育についてよくわかった。日本語教育＝人とつながる力を学ぶことだと思った。

それぞれの立場からの話がとても良かった。

行政とのつながり、具体的な就労成果への期待について等もっと聞けたらよかった。

生活者としての外国人の方の生の話が聞けてよかった。あらためて日本人が提供すべきものに対して考えさせられた。

人材育成をどう考え確立するか。全体で取り組まないとだめだと思う。

行政として外国人を取り巻く将来像や構想が見えない。無料で行政がどこまでフォローするつもりなのか？ボランティアをどの程度有効化したいのか？

時間が足りないほど良い内容だった。

単に日本語を習得することだけが目的となっているのはダメだとわかった。もっと日本語学習において学習者の目線、支援者への目線、地域の目線を確認しながら進めていくことが重要であると思う。

外国人が生活していくためや社会参加のためにどうしていけるか、支援できるか、共生できるかを考えていると思い、日本人側も動かなくてはと感じた。

今後、HICEが地域日本語教室とどうつながるのか、企業、行政、学校、研究機関との連携体制づくりをどのように進めるのか質問したかった。

あらためて生活者としての外国人を考える際には行政や民間企業とのつながりが欠かせないと感じた。

アンケートの結果から、シンポジウムの構成や内容について、良い以上の回答が多かった。評価をテーマとしたシンポジウムだったので、開発にいたった背景や理念をできるだけ誤解なく伝えることが目標の一つであったが、感想からも、それほどずれずに受け取られたことが読み取れてよかった。また、参加者の中に、日本語教育関係者だけでなく、自治体の行政職員や外国人住民も1割位あり、外国人集住地域としての課題や事例を広く発信する機会になったのが有意義であった。

(10) 改善点について

広く浅くではなく、一つの話について深く議論して欲しいという印象をもった参加者もいたようだ。テーマが大きかったのと、誤解なく伝えたいという思いが強まるとどうしても抽象的な言い回しになってしまうので、ある程度仕方ない部分はあると思うが、そういうニーズがあるのは確かなので、今後、企画をするときには参考にしたい。

また、外国人集住都市において日本語教育に関する課題は類似していたり、同じ経緯をたどっていることも多いので、シンポジウムを通じて広く参加を呼びかけ、課題解決に向けて連携協力していきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

平成24年度文化庁委託事業「浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業」で策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを浜松市内に普及および活用させる。評価システムを活用し、学習者は自己の日本語コミュニケーション能力を客観的に知り、自律学習の動機づけや社会参加への促進とつなげる。地域日本語学習支援団体は、学習者の日本語評価を行うことによって、それぞれの日本語学習の成果や課題を認識し、学習者のニーズに即した効果的な学習プログラムの構築につなげる。また、評価システムを社会に発信することによって、周辺化された外国人の存在をより顕在化し、日本社会の多文化共生社会への変容を目指す。

(2) 事業目的の達成状況

昨年度開発した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを、浜松市外国人学習支援センターにおいて運用しながら、改善を行うことができた。

まず、基準表そのものに関して、インタビューテストを繰り返し行いそれを見直すことによって、生活者としての外国人が自然に習得してきた日本語の特徴が明らかになった。また、それら特徴のうち、良い点は活かし、修正したほうが良い点は判定基準に取り入れるることによって、彼らに必要な日本語コミュニケーション能力の基準を再構築することができた。

また、今年度より、センターの学習者はHAJACテストを行いそれに対する評価を受けることとなったが、次期へ学習を継続する希望者がほとんどだった。また、判定に不満を持つ学習者もわずかながらいたが、日本語教師と事務局がていねいに理由を説明することによって納得を得られ、同じレベルを再度受講することとなった。これまでは、教師個人の経験や勘による判断に委ねられ、学習者に対する評価に教師の主観が反映することもあったが、基準が統一されたことによって、客観的に示すことができるようになった。このことは、学習者が持つ教師に対する信頼感の向上につながったと感じている。

また、基準表をもとに、浜松市外国人学習支援センターより上のレベルの外国人に対し、日本語教室を設置したところ、想定以上の申し込みがあった。センターの学習者に比べ、日本語にさほど不自由していないと思っていたが、正規雇用を目指したいやPTAとして学校に協力したい等、日本語学習に対するニーズを把握することができた。

今年度は上記取組を組み合わせながら、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの試行・改善・普及を目指してきたが、それらの結果をシンポジウムで発表することができた。市内のみならず、近隣地域の日本語教育関係者をはじめ、集住都市の行政担当者、国際交流協会職員らの参加も得ることができた。評価システムを開発した経緯、その目的・効果について広く知らせることができた。参加者に何か一つでもヒントが提供できていれば光栄である。

シンポジウム参加者(地域別)

浜松市内	65
静岡県(浜松市外)	18
愛知県	5
東京都	3
岐阜県	2
大阪府	2
京都府	2
神奈川県	1
石川県	1
三重県	1

(3) 地域における事業の効果、成果

浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを地域の日本語教室でも活用してもらい、市全域における学習者の社会参加支援を目指した。そのために、土日や平日夜間に日本語教室を開催している日本語学習支援団体や、厚生労働省委託日系人就労準備研修を行っている一般財団法人日本国際協力センターに呼びかけ、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム普及検討委員会を開催した。評価基準の共有化に向けて、まず始めに互いの日本語教室の実態を共有することからはじめたが、このことにより、団体の理念、日本語教室の目的、対象となる学習者層、課題が浮き彫りになり、連携に向けての第一歩となった。

また、評価基準やそのテスト方法といった具体物を使って話し合いができたため、それぞれの団体でどう活用できるか否か、また共有化するための課題は何か等、改善に向けて具体的なヒントを得ることができた。

普段、互いの教室について、何曜日の何時からやっているという程度の認識しかなかった上に、ややもすると学習者を取り合うという意識に傾いてしまうときもあったのだが、今回の委員会を通じて、市全域の日本語教育環境整備という大きな目標に向かって第一歩が踏み出せたと思う。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

昨年度策定した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムを改善し、普及に向けての取組を進めてきた。浜松市における外国人住民の永住化が進む中、まずは、日本社会で安全に暮らすために最低限習得したほうが良い日本語と、より深く社会に参加するために必要な日本語や日本文化への理解の両面の学習支援が必要だということが本事業を通じて明らかになった。

ii 今後の課題

日本語を学びもっと深く日本社会に関わりたいという学習者の思いは、出席率や受講態度、アンケート結果にも表れており、今後彼らを多様な人材として日本社会で活躍するきっかけや場を検討する必要がある。実際に、日本語教室「ていねいな日本語」のリクエストも数件入っているのので、教室設置を検討していきたい。

また、適切な判定を行うためのインタビューの仕方や、評価を学習につなげるために学習者にフィードバックをすることは、一定のトレーニングが必要なことや、本評価システムの理念や背景を理解することも必要である。それらを盛り込んだ評価者養成講座を検討していく必要がある。

今後は、行政施設の浜松市外国人学習支援センターとボランティアが中心となって運営がすすめられている地域の日本語教室との役割分担を検討するとともに、就労支援も見据えた日系人就労準備研修とも円滑な連携体制を作り、市全域の日本語教育環境を整備していきたい。

iii 今後の活動予定

平成26年度は、地域日本語教育連携事業として、前述のとおり地域日本語教室と日系人就労準備研修との具体的な連携体制を構築する。その際、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの活用についても検討をすすめ、引き続き学習者の学習意欲を刺激できるようアプローチしていきたい。

(5) その他参考資料